

科目ページの見方

教科の名前です。
稔ヶ丘では「国語」「地歴・公民」「数学」「理科」「保健体育」「芸術」「外国語」「家庭」「情報」「商業」の他、「総合」「総合的な探究の時間」があります。

科目の名前です。どの曜日・時間でも、同じ科目なら同じ内容です。

もくじと連動しています。履修できない年次には「-」が書かれています。
4年次について「16・17期生」と「15期生」で異なる場合、注意書きがあります。

その科目を修得した時得られる**単位数**です。
1単位 = 1週間の授業時間が1時間です。

教科	科目名	単位数	履修の種類	授業形態	定員	1年次	2年次	3年次	4年次
国語	現代の国語	2	必修	講義	-	▽	再	再	再

学習目標
「必修」「選択必修」「学校必修」「学校必登録」「自由選択」のいずれかが書かれています。

講義：主に座学のこと。
演習：プリントや問題集などを利用する。レポート作成など。
実習：パソコン実習、実験、実技、製作、調査、研究、体験活動など。

1講座(1クラス)の**定員**人数です。
必修(選択必修・学校必修含む)の場合、「-」と書いてある場合があります。

主な学習計画
年間の学習
2学期 ○主張と根拠、具体と意識しながら文章
3学期 ○目的に応じて推

教科書や副教材が書かれています。同じ科目でも、年度が違えば教科書が変わっている可能性があります。学校独自のプリントを配布する場合があります。

教科書副教材等
50 大修館 現国 902 『新編現代の国語改訂版学習ノート』(大修館書店) 『最新国語便覧 本誌+デジタル版』(浜島書店) ほか

留意事項
○「現代の国語」は卒業までに2単位履修しなければならない。(16期生以降)
○「国語総合」の未履修者(15期生まで)は卒業までに「現代の国語」2単位と「言語文化」2単位を履修しなければならない。
○「国語総合」を履修済みの生徒は履修
○「現代の国語」を再履修する場合は、
○学習計画は変更の可

卒業に必要な条件や教科担当からの要望、教材費について、学習に必要な用具など履修する上で重要な内容が書かれています。

評価の方法
 出席状況
履修条件
 「国語総合」を履修済みの場合
セルフチェック
 履修の条件と留意事項
 この科目を履修するために必要な条件が、明記されています。 ※必ず読むこと
 セルフチェックには現在の年次の確認や履修の条件などがクリアできているかのチェック項目が書かれています。
 留意事項には重要な事柄が書かれています。必ず読み、十分理解したうえでチェックをしましょう。
 全てにチェックがついたら履修できます。

オススメ図書
『読解力を身につける』(村上慎一)

このシラバスは令和8年度のもので

1から3年次の生徒は現在の年次より1年次上がります。下記対照表の“来年度の年次”で確認しましょう。

必修(選択必修含む)科目は、履修が認められなかった場合、翌年度以降再度登録が必要です。(再履修)

“現在の年次”とは、令和7年度現在の年次のことです。新生は「令和8年度新生」と書かれています。

“履修見込み”とは、“令和7年度に授業登録していて、年度末に履修が認められる見込み”のことで

履修の条件に“履修済み(または見込み)”が含まれている場合、履修できなければ登録を変更しなければいけません。

年次・入学年度・期生対照表 (令和7年度現在)

現在の年次	来年度の年次	入学年度	期生
	1年次	令和8年度入学生	20期生
1年次	2年次	令和7年度入学生	19期生
2年次	3年次	令和6年度入学生	18期生
3年次	4年次	令和5年度入学生	17期生
4年次		令和4年度入学生	16期生
		令和3年度入学生	15期生

しっかり読み、分からないことがあれば先生方に相談し、履修登録をしましょう。